

IV-19

磐越自動車道 いわき～郡山間の開通に伴う影響について

日本道路公団 仙台管理局 技術部 保全第二課長代理
 仙台建設局 建設部 企画調査課

橋 本 和 重
 斉 藤 啓 之
 内 堀 利 哉

1. はじめに

常磐自動車道 いわき J.C.T. を起点として北陸自動車道 新潟中央 J.C.T. に至る延長 213km の磐越自動車道は、平成 7 年 8 月 2 日のいわき J.C.T. ～郡山 J.C.T. 間 72km の供用によりいわき J.C.T. ～会津坂下 I.C. までの区間 133km が開通し、常磐自動車道・東北自動車道と接続した。

当該区間の開通により、従来、福島・郡山・いわき・会津若松の 4 地域個別の経済圏を形成してきた福島県が、高速交通網で結ばれ、さらに、常磐自動車道・東北自動車道が接続することにより、関東方面との交通経路選択性が発現し、それとともに、トライアングル・ネットワークが形成された（図-1）。

そこで本稿では、磐越自動車道 いわき～郡山間の開通に伴う影響について、今回とくに交通流動と緊急医療への影響を中心に調査した結果を以下に示す。

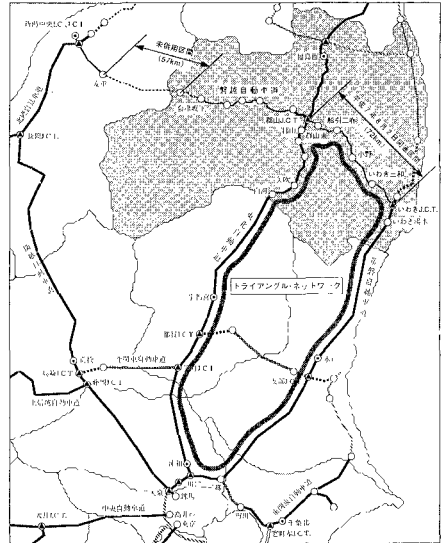


図-1 磐越自動車道位置図

2. 交通流動への影響

(1) 磐越自動車道 いわき～郡山間の開通に伴う交通量の変化

当該区間の開通に伴う交通量への影響を把握するため、供用前後における周辺道路の交通量を調査した結果を下記に示す（図-2）。

①国道49号は当該区間の開通による影響が大きく、平田村・田村町では平日で約15%（約1,500台/日）、休日の約30%（約4,500台/日）の交通量の減少となり、国道49号の交通量は大幅に磐越自動車道への転換が促進されていると考えられる。

②競合断面については、平日では競合断面1・2で一般道の約10%（約2,000台/日）の交通量が磐越自動車道に転換しているものと想定される。一方、磐越自動車道の交通量は約8,000台/日であり、一般道からの転換量の他に約6,000台/日の誘発交通や東北自動車道から常磐自動車道への転換交通が発生していると考えられる。

③休日では一般道の交通量の減少が約30%（約5,500台/日）と平日を上回っており、磐越自動車道の交通量は約15,000台/日と大きく約9,500台/日の誘発交通や転換交通が発生していると考えられる。

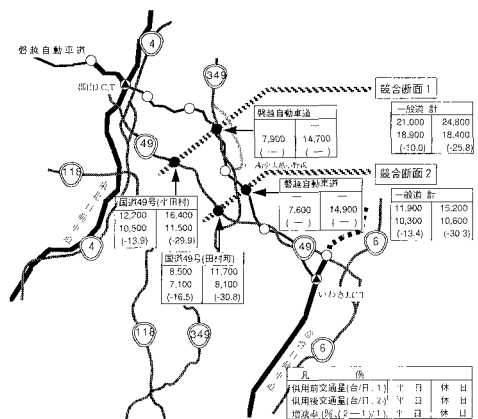


図-2 磐越自動車道供用前後の交通量調査結果
 供用前：平成7年7月19日（平日）・23日（休日）
 供用後：平成7年10月22日（休日）・25日（平日）

(2) 東北自動車道の大雪通行止めに伴う迂回状況

平成7年12月25～26日にかけて発生した大雪による東北自動車道 郡山J.C.T.以南の通行止めにより、通常約3,500台/日の磐越自動車道 郡山J.C.T.～郡山東I.C.間の上り線の日交通量が約5,000台/日となり、この2日間に約3,000台の交通量が東北自動車道より磐越自動車道を経由し、常磐自動車道から関東方面に向かったものと推測される(図-3)。このことは、今まで唯一であった東北自動車道ルートに対し、磐越自動車道・常磐自動車道ルートが災害時における代替機能を果たしたと思われる。

(3) 関東方面との帰省客等の交通集中の分散化

関東方面との帰省客等に伴う年末年始の高速道路の混雑状況をみると、当該区間の開通により、平成7年12月28日～1月4日の平均日交通量は東北自動車道 郡山J.C.T.以南については平成6年度の交通量に対し約10%減の約39,000台/日(図-4)で、一方、常磐自動車道 いわきJ.C.T.～いわき湯本I.C.間については同様に44%増の約20,000台/日となっている。以上より、従来東北自動車道ルートに集中していた交通が、磐越自動車道・常磐自動車道ルートに分散化したと思われる。

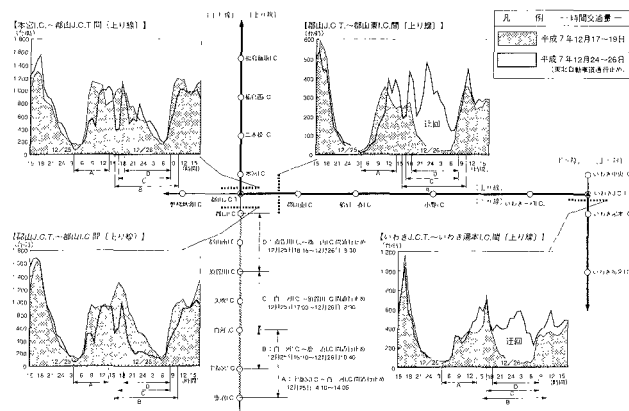


図-3 東北自動車道の大雪通行止めに伴う磐越自動車道への迂回状況

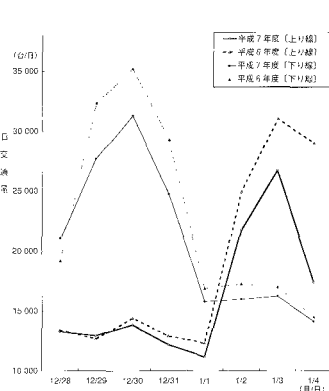


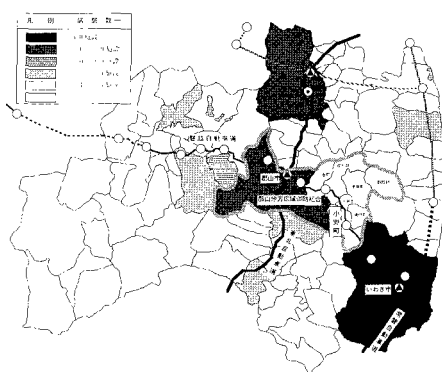
図-4 東北自動車道 白河～矢吹I.C.間の年末年始交通量の推移

3. 緊急医療への影響

郡山市と田村郡を管轄する郡山地方広域消防組合の中で小野町を管轄する船引消防署 小野分署では、町内にある公立小野総合病院では処置困難な重体患者や時間外の救急患者を磐越自動車道を利用して郡山市やいわき市にある第3次救急医療センター等へ搬送している。田村郡を管轄する船引署全体では、当該区間の開通から約半年間に郡山市へ73件、いわき市へ13件の救急搬送に磐越自動車道を利用している。これは、医療水準の低い町村(図-5)では、救急医療機関として都市部の高度医療機関での処置を望む住民が圧倒的に多く、当該区間の開通は救急患者等に迅速に高度医療を受ける機会を与えているものと思われる。

4. あとがき

当該区間の開通により、磐越自動車道は全体の73.2%が完成したことになるが、残された会津坂下I.C.～安田I.C.間57kmの供用により以下の新たな展開を迎えることになる。①太平洋と日本海が高速交通網で結ばれること。②常磐自動車道・東北自動車道に加え北陸自動車道にも接続し関西方面にまで拡大された交通経路選択性が発現されること。以上により、ますます経済活動や生活・文化に与える影響は大きくなるものと思われる。これらの実態の調査および分析は今後の重要な課題と考えている。



(資料) 厚生省「地域医療基礎統計」平成4年
図-5 福島県内各市町村の病院数分布